


 いわき市立総合磐城共立病院

地域医療連携室だより

～ 地域医療の危機を救うために ～

それは、“より良い三角関係”の構築から

いわき市病院局長 鈴木 正 一



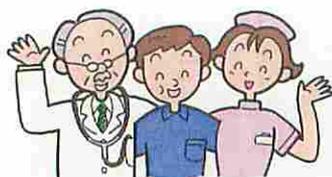
地域医療の危機を救うためには、“より良い三角関係”の構築がポイントになるかと思えます。“三角関係”と言うと、男女間でのトラブルなどをよく思い浮かべますが、ここでは、そういうことではありません。実は、「患者さん」と「地域医療機関(かかりつけ医を含む。)」、そして「当院」との関係のことなのです。

これまでの国の構造改革の下で、医療制度自体が大きく変貌し、医業経営の根幹となる社会保険や診療報酬体系の有様、医師の輩出構造の変遷など、どれ一つとっても、医療や病院経営上、楽観できるものはなく、今後とも、改革や適正化の名の下で、その厳しさは増すばかりと言わざるを得ないのが実情です。

しかし、そうそう嘆いてばかりはいられません。言うまでもなく、市立病院は、市民の皆様
の生命と健康を守るため、公平かつ良質な医療を安定的に提供するとともに、地域の中核病院
として、高度医療や政策医療を中心に、地域医療機関との役割・機能分担を明確にし、医療資
源の有効活用を図ることを念頭に置き、効率的な医療の提供体制を築いていくことが、その課
せられた大きな責務なのですから。

そこで、医療資源の最適分配という観点で、今後、一層、その重要性を増してくるのが、「地
域医療連携システム」の確立です。これまでも、「病診・病病連携」ということで取り組み
てきましたが、診療科目や勤務医の偏在に象徴されるように、救急医療をも含め、市内の地域
医療の実情というものを十二分に踏まえ、各自が責任と役割分担の下で、今、直ちに対処しな
ければならない課題の解決に向け、具体的な行動として実践していくことが強く求められてい
ます。

当院では、本年4月からスタートした市病院事業改革の取組みの一つとして、「地域医療連
携室」を組織的に明確に位置付け、専任職員も配置しました。この組織等をフル活用し、地域



【いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室】

電話 0246(26)2250(直通) FAX 0246(26)2119
URL <http://www.iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp>
E-mail kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp

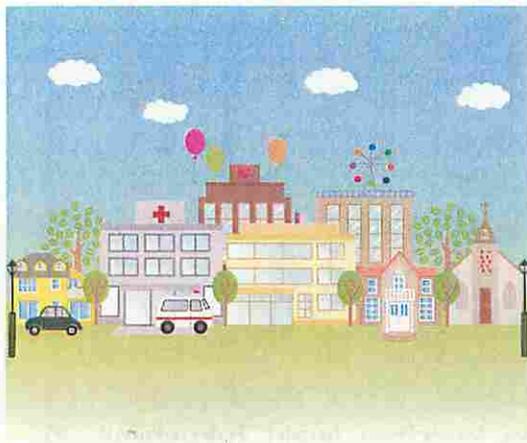
の医療機関の皆様には「登録医療機関」として御協力いただき、更なる連携強化の下で、理想とされる患者さんの医療の各ステージ（急性期、回復期、慢性期等）に適合した医療サービスが、文字通り“切れ目なく”提供できるよう努めていきたいと思っております。また、改革の基本となる市病院中期経営計画（目標年次：平成22年度）の中で、経営指標を定め、特に、当院の「紹介率」を48.0%に、「逆紹介率」を60.0%に引き上げ、「平均在院日数」は16.0日に短縮化を図り、「病床利用率」も92.0%に引き上げることと具体的な数値目標を掲げ、「急性期医療機関」としての機能特化を図りながら、「地域完結型」の医療の一端を担うためにも、同計画の終期の平成22年度を目途に、「地域医療支援病院」となれるよう取り組んでまいります。

ご承知のように、去る8月21日には、市と市医師会、市病院協議会の三者による「市地域医療協議会」の成果として、「いわき市における医療の確保に関する協定書」が締結されました。私達は、この協定書を大きな支えに、地域の医療機関が、互いに協力・連携をして、その目的を達成していくことが大事だと思います。そして、その成否の鍵を握っておられるのは、患者さん御自身の医療に対する認識と、それに基づく具体的な受診行動そのものにあると思います。実際に、当院で、急性期を脱し、回復期医療が必要な患者さんに転院をお勧めしても、これを希望されずに、引き続き入院されているケースなどが散見されます。これは、当院に限らず、患者さんの多くは、これまでの「施設一貫型」あるいは「自己完結型」の医療サービスに、長く慣れ親しまれてきたことに起因するものなのか、また、あるいは、いわき地域特有の医療機関の整備状況と患者心理とが微妙に結び付いて、これまでの時間的経過の中で形成されてきた、特定の医療機関に対する過度なまでの信頼感や極端な思い入れなど、言葉を換えて言えば、“〇〇病院神話”めいたようなものが現在でも流布しているせいなのかもしれません。

いずれにしても、これは、地域医療連携システムが有効に機能できていない実例の一つかと思われまます。

しかし、今こそ、その“神話”めいたものからの脱却こそが必要なのです。決して、一つの医療機関が、医師やコメディカル、そして高価な医療機器などをフルセットで維持していける環境にはなく、同一医療機関にあらゆるステージを通じて受診されることは、むしろ、患者さん自身の医療費負担の面や病気の治療成績の向上など、どの点をとって見ても、決して得策ではないということを十二分に御理解をいただくことが肝要なのではないでしょうか。

市民の皆様が、安全に安心して暮らせる医療を確保していくためにも、医療や看護あるいは介護の分野をも含めて、いわき市という地域全体が、一つの病院であり、生活の場であるとい



うように御認識いただき、病院、診療所等の施設、医師や看護師など限られた医療従事者の貴重な力を、効率的に、その機能が最大限に発揮できるようにしていくためにも、患者さん初め、医療に関わる多くの皆様方に、是非とも、こうした共通認識の上に立って、“より良い三角関係”というものが構築され、望ましい「地域医療連携システム」が機能していけるように、特段の御理解と御協力を心からお願いいたします。

中越地震災害ボランティア



救命救急センター：藁谷 暢先生

7月31日、8月1日と2日間、新潟県中越沖地震の被災地・柏崎市へ医療支援に行ってきました。被災後、約2週間たっており、徐々にライフラインは復旧してきていました。巡回診療を中心に活動しましたが、家屋は倒壊したままで、生活の問題が大きかったと思います。具体的には、被災者の方の悩みなどを聞いたりすることが多かったです。新潟へ行って考えていたことですが、今後、宮城県沖地震・首都直下型地震などが発生すれば、相当の被害・混乱は必須です。院内の協力体制を含め、いわきが被災地になった場合の体制など、課題が多いと感じました。実際に活動してみて初めて気づく問題点というものがあります。今回の経験が、少しでも活かされればと思います。

中央外来：副看護師長 橋本 雅裕

7月16日新潟県中越沖地震による災害にあたり、県の要請から災害支援に医師2名・看護師2名・事務1名のチーム体制で活動してきました。災害から2週間経過した亜急性期は、衛生環境の悪化、集団での避難所生活、将来への不安など健康問題が発生する時であり、今回の巡回診療には適切なケアを積極的に指導してきました。また、医師・看護師で訴えを良く聞き、投薬の継続や必要な治療を受けるよう指導し、各避難所の保健師に巡回診療記録や伝達事項等を引き継いできました。被災地では、到着時に家屋の倒壊を目にして精神的な高揚を経験し、また巡回時には“心のケア”を必要とした被災者がおり、カウンセリングできるサポート体制が重要と思います。いわきが災害に見舞われた時、常日頃から危機管理について事前準備が必要であり、各医療機関と連携を図り、流動的に臨機応変に対応できるようシステム構築の重要性を考えさせられました。

今後は、この経験を基に防災の意識付けを持ち、災害看護について知識を深めていきたいと思います。

診療科 紹介

産 婦 人 科

産婦人科

本 多 つよし

日本の産婦人科医療全体を見渡したとき、危機的状況といわざるを得ません。これは、行政の認識の甘さによるものと思われれます。産婦人科医の減少、特に産科医に関してはひどく、全国で約3000人が不足しているといわれております。これは、医事紛争・医療訴訟の増加、刑事司法の医療現場への介入の問題と相俟って、分娩取り扱い医療機関の減少に拍車をかけております。新医師臨床研修制度による二次医療施設の勤務医の減少も起きております。したがって、産婦人科医、特に勤務医の労働環境は悪化の一途をたどっております。就任時に渡されたいわき市立総合磐城共立病院の医師勤務案内の概要の中の基本方針には、

1. 浜通り地区の中核病院としての役割を担います。
2. 地域と連携し、高度医療、先進医療、救急医療の充実に努めます。
3. 明日を担う医療従事者を育成します。
4. 患者さんと職員との信頼関係を築くことに努めます。
5. 安全で安心な医療を提供するために「チーム医療」を実践します。
6. 自治体病院として良質な医療の提供と健全経営に努めます。

とありました。患者さんの住所を拝見しておりますと、1.の意味が良くわかります。特に相双地区からの患者さんは非常に多く、また、重症化の傾向にあります。浜通りにはいくつかの中規模病院が存在し、それぞれの任に当たっておりますが、福島県としては浜通りを一つの地域と考え、その中心に当院を当てているようで、当科としても現時点でいわき市以外の地域からの患者さんの受け入れは如何ともし難いものがあると考えております。さらには、NICUとも関連がありますが、地域周産期母子センターの指定を受けている関係で県内からの母体搬送の受け入れもあります。以上のことは、我々が就任直後からの緊急課題でしたが、関係各位の方々のご理解とご協力で何とかなっている状況です。2.につきましては1.とも関連いたしますが、特にいわき市内の先生方からのご要望につきましては100%受け入れることとしております。そのため、絶えず、2名がオンコールの状態です。必要に応じて全員で事に当たることもしばしばです。3.につきましては、現在2名の後期研修医と2名の初期研修医がおります。前者は産婦人科を専攻した形で、専門医になるべく、日夜、臨床に励んでいるところです。後者はいわゆるローテーターで臨床実習を行っている先生方です。この中から産婦人科を目指す方が出てくれることを切に望んでおります。先日、私自身、新臨床研修指導医養成講習会を受講してまいりました。この経験を今後にかし、一人でも多く優秀な産婦人科医がこの病院から巣立っていき、さらには、成長した後、この病院に戻ってきて地域医療に貢献していただきたいと思っております。4.につきましては院内に産婦人科診療等運営連絡会を設け、共立病院産婦人科としての質の向上を図るべく会議を重ねているところでございます。今後の活動に期待を持っております。5.の「チーム医療」につきましては、本年の4月に5人が集まった際にはお互いに初対面で相手の性格や技



術がなかなかわからないままの仕事で、渾沌としておりましたが、最近ではお互いが解りあえて仕事がスムーズに行われるようになってきました。今後、さらにチームワークを良くし、あらゆることに全力で当たって行きたいと思っております。6.についてはこの地域における性感染症や子宮頸癌の発生頻度を抜きにしては語れません。いわき市の地域医療を進める上で肝要なことは、他の地域との疾患の相違を見つけることとあります。いわきには上記疾患が多い。我々は何をすべきか？第一に予防のために啓蒙活動をするかと考えます。これは、私が以前より行ってきたことで、今後も続けていきたいと思っております。また、健全経営に関しては、私が口を挟むことではないかもしれないが、分娩介助料を値上げしたいと切に思っております。これは、共立病院の産科医療の現況を見ていただければわかります。機器の老朽化や人手不足、過重労働が顕著です。そのためには資金が必要です。お断りしておきますが、料金は他と比較して安いものと確信しております。他と同じレベルまでで結構ですので、値上げをご了承いただきたく存じます。個人的には助産師の育成、終末期医療をどうするかが今後の緊急課題と考えます。いわき市長さんと面談した際には助産師の育成コースをいわき市内に設けるべきとお話いたしました。年間で4000人近い新生児が誕生する市に一つも育成施設が存在しないことはありえない由お伝えしてあります。また、終末期医療の核となるホスピスもありません。今や、専門的な知識を持ったスタッフが多数必要となった終末期医療は急性期病院で治療、看護できる枠を超えてきております。この広い人口36万都市いわき市に施設が存在しないことは不思議です。誰か何とかしていただけませんか？お願いいたします。

〈産婦人科医局員〉



診療科
紹介

歯科 口腔外科

歯科口腔外科

内藤 博之

いわき市立磐城共立病院歯科は、昭和31年9月に創設されました。昭和54年4月より現部長である椎木一雄先生が着任し、歯科口腔外科と改称し、浜通り地区、いわき歯科医師会の協力で多数の口腔外科疾患が紹介されています。

現在のスタッフは、椎木（日本口腔外科学会専門医・指導医）、内藤（日本口腔外科学会専門医）、竹内、そして臨床研修歯科医師の佐藤、渡邊の5名です。

歯科口腔外科とは、なじみの少ない診療科と思われますので紹介しますと、主に扱っている疾患は、歯牙齲蝕や歯周炎から波及した細菌感染症（歯性感染症）、口腔顎顔面領域の外傷、嚢胞性疾患や腫瘍の治療、そして循環器疾患や血液疾患などを有した方の歯科治療などに携わっています。

外来の1日を紹介しますと、午前は初診および再診患者様の診察で、午後は通院日帰り外来手術（主に埋伏智歯や難抜歯手術、顎骨嚢胞摘出手術）を行っており、年間約1900例の外来手術を行っています。

2006年の統計では、入院症例は226例で手術症例は213件でした。入院症例の内訳としては顎骨嚢胞67例、感染症48例、入院を要する抜歯手術38例、悪性腫瘍35例、外傷15例、良性腫瘍13例、顎骨発育異常などの奇形10例でした。

近年、循環器疾患や脳血管疾患における抗凝固療法を受けている方が、抜歯などの歯科治療



のため抗凝固療法を中断しますと、感染性心内膜炎や脳梗塞などを惹き起こすリスクが高いことが指摘されており、当科では抗凝固療法を中断しないで観血的治療を行うようにしています。

口腔悪性腫瘍の治療については、特に高度進展例に対する広範切除を要する症例では形成外科の協力を得て、顕微鏡下血管吻合を用いた遊離組織移植による再建手術を行い、術後のQOLを高めるように努めています。

また当科の研究テーマとして、椎木を中心に、歯性感染症の検出菌の動向と抗菌化学療法について臨床的検討を行っており、学会および近隣の歯科医師会等の勉強会・講演会などに積極的に参加し、地域医療にフィードバックするよう心がけています。

当科からのお願い

現在、通院日帰り外来手術は年間1900例にのぼるため、予約待ち期間が長くなり、紹介元の先生方および患者様には、ご迷惑をおかけしており、さらに紹介患者様の待ち時間でご迷惑をおかけしているのが現状です。そのため当科としては病院歯科口腔外科の性格上、専門性を発揮するため、一般の歯科治療（充填、差し歯、義歯など）は他疾患によるハイリスク患者様に制限させていただいています。また口腔外科的疾患の治療が終了後、歯科治療が必要な場合、かかりつけ医に治療をお願いしていますので、ご協力をお願いいたします。

今後ますます地域医療連携室を利用させていただき、診療の円滑化に努めていきたいと思っておりますので、ご支援・ご協力の程お願い申し上げます。

ようこそ!! 新任医師紹介

平成14年、東北大学医学部卒業、東北大学眼科入局。その後、大学病院、大崎市立病院（旧古川病院）、山形市立病院済生館を経て、当院へ着任いたしました。まだまだ未熟ですが、地域医療に少しでも役立つよう努力いたしますので、よろしく御指導をお願い申し上げます。



眼科
今留尚人先生

院内イベント紹介



共立病院 サマーコンサート

7月14日、中央待合ホールにて「共立病院サマーコンサート」が開催されました。当コンサートは、音楽を通して清々しさと心の安らぎを提供し、患者さんの一日も早い健康回復と関係者の明日への活力を願うことを目的としています。当院職員有志で結成された「どじょっ娘の会」によるハンドベル、「クゼ・フィールドストリングス」による弦楽合奏の2部構成で、入院患者さんやお見舞いに訪れた市民の皆様にも普段とは異なるもう一つの病院を体験していただけたのではないのでしょうか。

『第26回 いわきおどり 中央大会』に参加!!



8月8日に開催された「第26回 いわきおどり 中央大会」(第2部)に当院も参加しました。当日は途中から降り出した雨の中、参加した医師や看護師、職員は、駅前大通りを弾ける笑顔で時間いっぱい踊りきりました。

地域医療連携室業務時間
月～金 8:30～17:15

〒973-8555 福島県いわき市内郷御厩町久世原16番地 いわき市立総合磐城共立病院